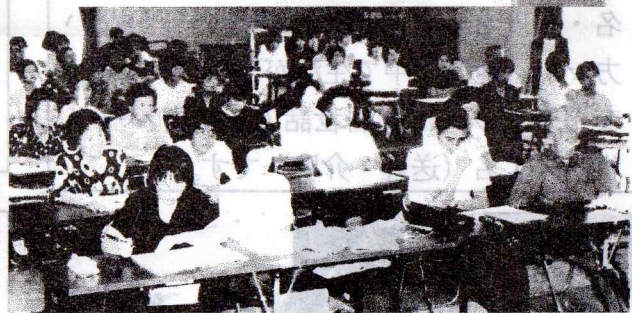
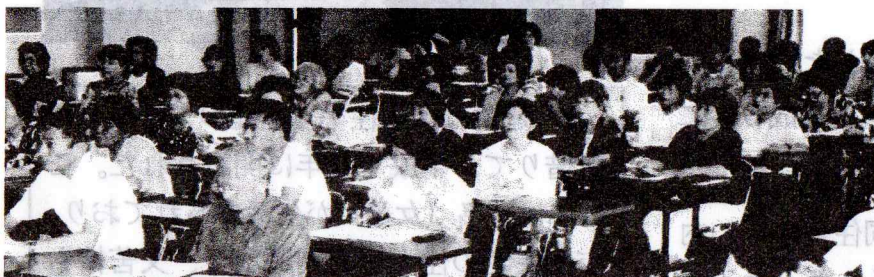


ひとり ひとり ひかる

き ぼ う

2003 10/1
第34号

発行：かしの木の会/かしの木の里内 尾西市富田字砂原 2147 : kasisato@f7.dion.ne.jp
椋の木園 : kasiyen@k3.dion.ne.jp 椋の木作業所 : kasisyo@k2.dion.ne.jp
かしの木 ホームページ http : www.h3.dion.ne.jp/~kst/



写真は、9月6日に尾西文化会館にて「グループホームについて」と題して、かしの木の会が講演会を開いた。近隣の市町からも参加があり、会場には90名が集まった。「10年後20年後のことを想定して、指導・しつけをすることではなく、その人自身の生活を楽しむ方法として考えることが大切！」

相次ぐ親の死から人生選択した事例はズシリと重かった。この地域にグループホームはいつ生まれるのだろうか。



【34号きぼうの目次】

- 表紙 写真 目次 P. 1
- 学習会 (講演) (見学) P. 2~3
- 地域福祉コーナー①/福祉フェスティバル P. 4
- 地域福祉コーナー②/地域福祉サービス P. 5
- 地域福祉コーナー③/食生活改善グループ P. 6
- 地域福祉コーナー④/ピュアハウス P. 7
- かしの木の会コーナー①/かしの木フェスティバル . . . P. 8
- かしの木の会コーナー②/収益委員会 . . . P. 9
- 施設コーナー[里]/支援費制度どうなってる P. 10
- 施設コーナー[所]/買い物学習・合宿 . . . P. 11
- 文芸コーナー①/映画 P. 12
- 文芸コーナー②/ライオンキング P. 13
- 文芸コーナー③ギャラリー④フロール展 . . P. 14
- お知らせコーナー P. 15~16

千歳の員会 > 関を請はく

グループホーム勉強会① 大府市に見学に行ってきました。

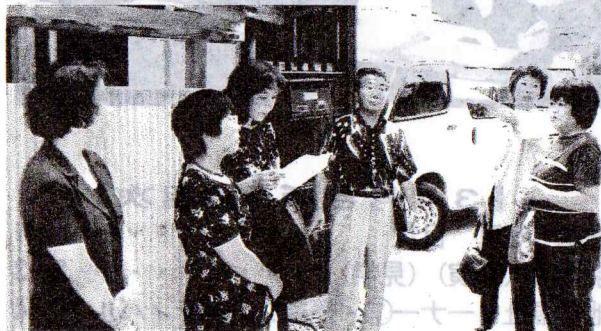
先般、大府福祉会が実施しているグループホームを見学させて頂いたことについての感想を述べてみたいと思います。大府福祉会の運営している通所作業所の近隣で色々な形のグループホームを「4箇所」立ち上げて、地域の中で普通に生活し近隣の皆様と問題なく日々を過ごされている、とのことでした。

4箇所の概略を下記に説明したいと思います。最初のグループホームは平成6年に開設されています。

1・建物は一般の平屋共同住宅4戸の内3戸を借りて、4名(男子2名・女子2名)で生活している、障害程度は中度2名・重度2名と私達には想像のつかない方々が、地域の中で生活がされています。支援スタッフは同居世話人1名とパート世話人1名(送迎・介助)です。



3・建物は市営住宅4階建の1階を2戸分借りて、平成12年に開設された。ここには4名(女子)が生活をされており、市営住宅の住人とも問題なく、又苦情もなく仲良く暮らしているとのことでした。障害は最重度1名・重度1名・中度2名の方々でした。支援スタッフは同居世話人1名とパート世話人(夕1名)(世話人補助、週3日)です。



4・建物は木造2階建てを借りて、平成14年に開設されました。ここでは5名(男子2名・女子3名)で生活しています。障害は最重度2名・重度1名・中度1名・軽度1名の方々でした。次のグループホームを平成16年度に開設する予定で計画とのことでした。

2・建物は1戸建ての平屋造りで、一般住宅地の中にあり平成9年に開設された、この住宅は仲間の保護者がグループホーム用に新築され福祉会と賃貸契約して利用している。ここでは、4名+実習生(男子)が通常の生活をしています。障害は最重度2名・重度2名・中度1名の方々でした。支援スタッフは同居世話人1名とパート世話人(朝1名)(夕1名)(送迎・介助)です。



世話人さんのお話を聞く会員の様子

グループホーム勉強会② ~この地域で、この街で暮らしたい~

かしの木の会で、親なき後の障害をもつ子供達が地域でどのように暮らしていくかについて、保護者が先頭に立ち日々勉強会を重ねています、その一環としてグループホームを実施している施設を、色々な角度から見学をしている最中です。

先般、見学した大府市の大府福祉会・あけび苑の安井孝昭氏を講師に迎えて、会員・一般の方々にグループホームについての講演を、平成 15 年 9 月 6 日(土) 尾西市文化会館にて行いました。

講演の内容は(1)グループホームの現状と今後(2)グループホームの概要(3)グループホームでの生活(4)日常生活のビデオ拝見(5)幾つかの「危機」からグループホームへ、以上の内容について中味のある講演を聞くことが出来ました。

(1)の現状については、国の方針として入所施設は今後増設の可能性はなく、今後は地域で自立して生活するグループホームを進めていることです。

(2)の概要ですが、前ページのグループホーム見学感想に述べたとおりです。

(3)生活については、障害の程度が違う方々で暮らしていくことも出来ることが、講演のなかでわかりました。

しかし、これも周りの方々特に世話人さん・パートの世話人・ボランティア・行政の手助けがあつてこそ、障害をもつ人たちが地域で生活していくことが出来るのではないのでしょうか

また、生活費のことは家賃・食費・備品等は入居している方々が全部を負担してい

ることを聞いて大変であることが身をもつて感じさせられました。尚、仕事は 1 名だけが一般の企業で働き、他の方々は通所作業所で働いているとのこと、グループホームからの通勤方法も色々で徒歩・自転車・送迎の為、帰宅時間もさまざまですから世話人さんも大変だと思います。

(5)幾つかの「危機」ですが、最初の立ち上げの時は保護者からの反対もありました。一人の保護者が急に亡くなられて、子供が生活に困る事態になり立ち上げたグループホームに入居することとなり、他の保護者も真剣にこのことに取り組みました。そして次々と入居する人が増えて今では次はいつ出来るのかとの声も出るようです。

この施設の保護者の方々の考え方にも変化があり、保護者の元気な内にグループホームでの生活体験を積ませておき、保護者が老いても安心出来るとの考えに変化したとのこと。

特にこの施設では、若い親御さんが亡くなられたこともあり他の保護者も他人ごとで済まされない事態となったとの講話でした。入居者の状況は両親の亡くなった人、片方の親が亡くなった人が約半数であることも考えると保護者及び福祉会が真剣に取り組まなければならないことが良く理解できました。

このことから、子供達のためにも最初のグループホームを 1 日も早く立ち上げられるように行政・福祉会及び地域の協力を得て実施したいと思います。

(かしの木の会 黒原)



地域福祉コーナー① “福祉フェスティバルびさい”開催！！

今年も、“福祉フェスティバル びさい”が11月16日(日)に開催されます。今年で何回目か、みなさんはごぞんじですか？何と、もう12回目なんです。いつも頭をひねりながら、みなさんに楽しんでいただけるものを作ろうと頑張っていますが、みなさんに届いているのでしょうか？

ところで、このフェスティバルの理念として当初から考えられていた事は、ボランティア活動の重要性と地域福祉活動の連携でした。難しいことを書いてしまいましたが、要するに障害者も健常者も関係なく福祉活動に参加することで、お互いに理解し合い、共生できる福祉の街を造ってきたいということです。

毎年、たくさんの方に手伝っていただいています。去年は、かしの木の里のみなさんにもステージで歌ってもらいました。そういう協力がなければフェスティバルは成り立っていきません。この時期は特に、行事が毎週のようにあって、みなさんも忙しい中快く手伝っていただけるので、いつも感謝しています。いつもマンパワーってすごい！って感心しているんですよ・・・！



さて、今年は例年と少し趣向を変えてみました。(と、いってもそれほど変わりないかな・・・?) いつも午後からは、講演会をしていて、福祉に関係のある方を招いてい



ましたが、今年は福祉にとらわれないでいこうという事で、NHK エグゼクティブアザウンサーの松平定知氏をお招きしようと考えています。みなさんもテレビで見えてみえるでしょうか？内容はまだ決まっていないのですが、いろいろ楽しいお話をしていただけたらと思いますので、私も、今から楽しみにしています。(当日、講演会を聞かれるといいなあ～)

毎年、何ヶ月も前から福祉フェスティバルの準備を始めて、ドキドキしながら当日を迎えます。そして、あっという間に一日がすぎて、満足感と反省点をいろいろ考えながら、とりあえず無事に終わった事にホッとします。こういう経験って、なかなかできないものですね。やはり、こういうこともみなさんあっての事で、たくさんの方がきて、いろいろな人の笑顔を見て、福祉にふれて、考えてもらう。それこそが、この福祉フェスティバルの意義だと思います。たいそうな事を書きましたが、参加してくださった方に、少しでも楽しい時間を提供できれば嬉しいという思いで頑張っています。来場した人もしていない人も、是非今年も参加してみてくださいね。

(尾西市福祉協議会)

地域福祉コーナー② ☆「ふれあいの集い」へ取材に行ってきました☆

今回は、尾西市社会福祉協議会の地域福祉サービスセンター主催の「ふれあいの集い」へ行って来ました。この「ふれあいの集い」は、尾西市内の介護者や、お一人暮らしのお年寄り、からだにハンディのある方々に、心休まる時間を過ごしていただく、毎月行っている交流会です。今までは、尾西市文化会館を会場としていた為、会場から遠方の方や、移動が困難な方は来場が難しいという声も有ったそうです。

“地域により密着したふれあいを”という思いを込めて、今回は初めて地域の方々の集まりやすい場所へ移して開催してみようという試みで、尾西市開明の「老人憩いの家」で行われました。

ご家族の車でいらっしゃる方や、元気に歩いてみえる方、送迎サービスを利用してみえる方と様々ですが、皆さん開始時間にはバッチリ間に合っていました。今回は午前9:30~12:00までの間で、尺八演奏会

が開催されました。



多々見 塙修 氏 (尺八演奏者)を講師に、尺八の演奏や講習会、尺八に合わせて歌謡曲を合唱したり、尺八イントロクイズなど

面白い企画が満載でした。参加された皆さんはリラックスされた様子で、笑い声や笑顔がこぼれていました。

多々見氏の考案された「塩化ビニール管の尺八」を使って尺八の練習を皆さんされ、

すぐに音が鳴って嬉しそうな顔をされていました。私もその尺八を吹いてみましたが、もっと難しいものだと想像していましたが、以外に簡単に音が鳴って嬉しかったです。

多々見氏にインタビュー!! 尺八をはじめたきっかけは?・・・『尺八をはじめたのは、やはりその音色に魅力を感じたからです。とても難しいと思



われていますが、それはまちがった先入観です。その証拠に初めての方が音を出していたじゃないですか。音を楽しむから音楽です。』

当日は、雨という天候にも関わらず大勢の方が集まり、車椅子の方や家族の方、地域の民生委員さんのお手伝いもあり、集まりやすい会となっていました。「今まで行けなかったが、近くにこんな集まりがあると、楽しいです。」「いつもは一人で暮らしていて、皆さんと話す機会が少ないから今日は楽しいです。」ご家族の方も、「だんだんと年をとってきて疲れますが、こういう集まりは生き抜きになっていいですよ」と嬉しい一言。

現在も尾西市を6地区に区分けして交流会が行われています。お近くで「ふれあいの集い」が開催される時は是非お立ち寄りください!とっても楽しい集いでしたよ。

取材 大野さちこ

地域福祉コーナー③ ☆「食生活改善グループ」へ取材に行ってきました☆

食生活改善グループの活動されている南部公民館に行ってきました。そもそも食生活改善グループとは、尾西市で活動されている食生活改善推進員の集まりです。『昭和



34年に厚生省から「栄養の改善は、専門家の指導だけではなく、家庭の主婦自身が食生活を改めていく必要を自覚し、地域で自主的に活動していくことが大切だ」

と、地区組織活動を推進する方針が出され、行政と栄養教室を修了したリーダーが一体となった活動が全国的に展開されるようになりました。平成9年度に、地域保健法が施行となり、食生活改善推進員の養成は市町村で実施されることになりました。食生活改善推進員になるには、市町村が開催する「食生活改善推進員養成教室」に参加し、食生活改善や健康づくりに関する約40時間の講習を受けることが必要です。その教室で修了証を得て、自らの意志でヘルスマイト会員となり、ボランティア活動を行っています。』

↑「(財)日本食生活協会ホームページ参照」



南部公民館で活動されているグループは尾西南部と言って、15名の会員数ですが、その他にも尾西開明11名、尾西火曜10名、尾西木曜会8名と4つに分かれているそう

こさち種大 料理

です。みなさんは、50代から80才代の方で、尾西市の保健所が一宮市との統合の為保健所がなくなっても、活動を続けていこうということで、それぞれが自主的に、献立、材料の準備等、当番制で行なっている



そうです。又、糖分、塩分をひかえめにして、カルシウムを多く含んだスキムミルクを献立に取り入れ、骨粗しょう症予防にも力を入れているそうです。みなさん早くから、このようなことを実践してみえるので、いつまでも若々しく身のこなしも軽やかで、健康で過ごしていただけるのだなあと感じてしまいました。又、グループの皆さんは、かしの木のフェスティバルや、尾西市の福祉フェスティバルにボランティアとして協力してくださっているそうで、本当にありがたいことだと思います。いつまでもお元気で、末永く会が続けていかれることを願っています。取材・広報/長崎

【今回作ったメニュー】

ゆで鶏の梅あえずし・油揚げとじゃがいものみそ汁・焼きなすのサラダ・杏仁豆腐

おいしいしかかったです。杏仁豆腐



地域福祉コーナー④

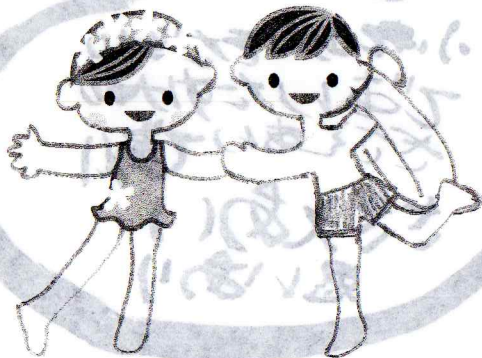
こんにちはピュアハウスです！！

ピュアハウスの仲間たち

8月10日に行なわれまして、かしの木の盆おどりで、ピュアの会が魚つりゲームをしました。小さな子供達が楽しそうに釣り上げた魚は、ピュアハウスの仲間達と指導員の方が作った魚です。色々な魚がいました。見ていただけたでしょうか？



少しだけ暑い夏がやって来た8月下旬、おたのしみ会で岐阜市にあります福祉友愛プールに全員で行って来ました。



屋外にあるプールです。水着に着替えて、冷たい消毒液のある所を歩き、シャワーを使い、いぎプールへ。大きな浮き輪を使ったり、頑張っ泳いだり水の中でとんたりはねたり。それぞれの楽しみ方で水を得た魚みたいにとても、うれしそうな顔、顔。子供達に合った方法で水に接して下さいる指導員の方には、とても感謝しています。親

も一緒になって楽しい時間を過ごす事ができました。また行きたいです。

お昼過ぎにピュアハウスに帰り、お昼は自分の好きなお弁当を食べました。プールで体をいっぱい使ったので全員が残さず食べました。午後からの仕事は、ゆっくりのペースで進みました。



指導員の方に来ていただいてからは、生活のリズムも、きちんとなりました。やっぱり親だけでは無理な事も多く、気が付かない事もあります。ピュアハウスの部屋の中も色々、子供達が使いやすいように、考えて下さっています。



4月からすると少しだけですが大人になったピュアハウスの仲間達を一度見に来て下さい。

ピュアハウスでは、ピュアの会の会員を募集しております。興味のある方は、ピュアの会までご連絡ください
0586-68-1207 渡辺まで

かしの木の会コーナー① ☆第4回かしの木フェスティバル☆ ～この街で 出逢い ふれあい 育ちあい～

第3回かしの木フェスティバルは2000人もの方々にご来場いただき大盛況のうちに終えることが出来ました。このことは、大勢の会員さんならびにボランティアさんのお力添えなくしては成し遂げられなかったと大変感謝しております。

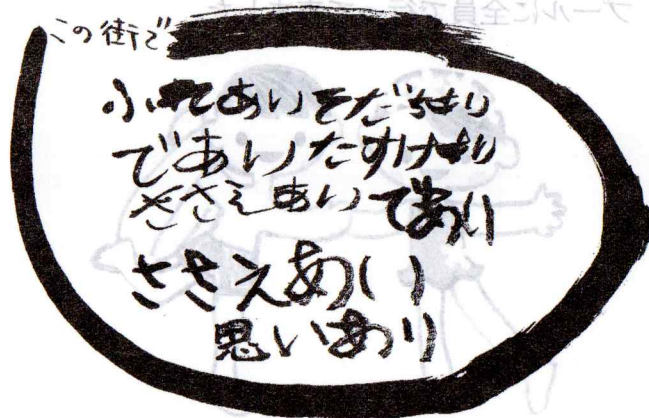


さてかしの木フェスティバルも今回で4周年を迎えることになり、この地域で11月になるとグリーンプラザ北の富田山ひろばで、今年もかしの木の祭が行われるといった感じで定着してきているのではないかと思います。またこれまでのフェスティバルでは、この地域にもハンディキャップをもった人が住んでいること知ってもらい、フェスティバルを通じて出逢い、人の輪が広がってほしいと願って、行なってきました。そのことは年々増えていくフェスティバルを支えてくださるボランティアさん、普段の施設での暮らしを支えてくださるボランティアさんと人の輪は確実につながり大きなものになってきました。

しかしわたしたちが目指すものは、この街で誰もが普通に暮らしていくことなのです。この地域でちょっと困った時に手を貸

してくださる、そのような人の支えが増えていけばと思っています。ハンディキャップがおおきければおおきいほどたくさんの人の支えが必要になり、そのことがあたりまえに行える社会になってこそ、誰もが安心して地域生活が送れるようになっていくのだと思っています。

第4回かしの木フェスティバルは、ハンディキャップがないに関わらず誰もが安心してこの街で暮らしていけるようになっていけることを一番に願い、より多くの人の出逢いの場、そしてその出逢いが確実につながり大きな人の輪になっていくこと願って、テーマは



この街で 出逢い 育ちあいです。

この街に住んでみえる誰もの人生がより楽しくより豊かになるために、あたりまえに助け合い励ましあい理解し合い、そのことを深めていける場になればと願っています。(第4回かしの木フェスティバル実行委員会)

かしの木の会コーナー②

～ 収 益 委 員 会 ～

かしの木の会の収益委員会って、何を
している委員会かご存じですか？

字のごとく《収益》を担当している委員会
です。ハンディのある人達の将来のための
資金作りをしています。

尾西市内にはハンディのある人達が働く
場としての作業所等がありますが、どこも
定員いっぱい、学校を卒業したあと安心
して通うところがありません。またハンデ
ィのある人達の中には両親とも他界され頑
張って一人暮らしをして見える方もありま
すが、将来的にグループホームで仲間と一
緒に暮らしたいと思っても、市内にはグル
ープホームが一つもありません。ハンディ
のある人達の多様な悩み、親たちの日々の
労苦を支えてもらえる支援センターがほし
い……等々、問題は山積みです。

親はどんどん年をとっていきますが、こ
の先どうなるのか不安ばかりです。どん
なに重い障害があっても、普通の人と同じよ
うに地域の中でその人らしくいきいきと生
きていきたい、と願っています。そしてか
しの木の会は、ハンディのある人ばかりで
はなく、誰もが安心して地域の中で暮ら
していけるまちづくりを目指しています。そ
んな思いの親たちが中心となって、たとえ
少しでも資金作りに励んでいます。

具体的には、3つの活動があります。月
2回程度、かしの木の里にあるプレラブ〈希
望〉にて手芸品を製作し、各地のバザーに
て販売させて頂いています。毎回20名前
後の方が参加して下さい、布で作る花や

袋物・民芸調の壁飾り・編み物・染め物・
手刺繍製品等の製作をしています。近頃
では、一般のボランティアさんが毎回何人か
参加して下さい、とても励みになっていま
す。

年2回夏と冬に、物資販売を行っていま
す。これは、からだにやさしい食品や、く
らしをゆたかにする生活用品をカタログ販
売させて頂き、その販売利益の一部を運営
資金にさせて頂いています。

年2回の大きなバザーの時に、不用品バ
ザーを行っています。夏の檜の木作業所
で行われる〈盆踊り大会〉と、秋の〈かしの
木フェスティバル〉に皆さんのご家庭でま
だ使えるけど不用になった品、贈答品で使
わない品等を頂き、バザーに出させて頂い
ています。

以上の3つの活動を中心に進めています。
もし、私たちの活動に関心のある方、協力
してみたいと思われる方は、かしの木の会
までご一報下さい。お待ちしております。

(収益委員会)



手芸品製作の様子

施設コーナー① 里 どうなってるの？ 支援費制度

「2003年4月、日本の障害者福祉が大きく変わる」との見出しで「支援費制度」がスタートして早6ヶ月が過ぎました。

それまでの措置制度による行政サービスとしての福祉から、利用者本位の選択、契約によるサービス提供への転換という大きな理想を掲げたこの制度ですが、「いったい何が変わったのかしら」という声も多く聞かれます。しかもこの制度の中心的な役割を果たさなければならぬはずの市町村でさえも「手続きが変わるだけでほとんど以前と変わりません」などと当事者に説明をしているところもある始末です。6ヶ月の間に様々な問題が浮き彫りにされてきたように思います。かしの木の里でたくさんの方々の生の声を聞き感じてきた問題を少し整理してみたいと思います。

まず第1に、供給できるサービスの量が圧倒的に不足しているというところ。利用者の自己選択を基にした支援費制度ですが、当初期待していた新規事業者の参入は伸び悩み、選択できるサービスに限りがある状況に変わりはなく、利用者の選択できる余地がまったくありません。

施設サービス1つとってみても、この施設も定員がいっぱい、利用希望者が溢れている状態です。これでは利用者が施設を選択するのではなく、反対に施設が利用者を選択してしまうことになってしまいます。利用したい施設を探すのではなく利用させてもらえる施設を必死で探さなければならぬ現状は、これまでよりもさらに深刻かも知れません。今後は必要なサービスや活動が必要な人たちが自分たちで作っていき動かし、それに対応した財源を確立させていくための運動がさらに必要になってきます。

また、この地域では居宅介護のサービスがほとんど育っておらず、在宅の人たちの生活は一つ変わっていない様です。障害者ホームヘルプが認められたとはいえ、実際には経験のあるヘルパーはほとんどおらず、利用者は安心して支援を求めるともできず、支援したいと考えているヘルパーさんたちがあっても、そういった研修をすることすらできないとの声も聞かれます。

短期入所においても同様です。通所施設にもその事業が認められるようになり受け皿は増えたように見えますが、実際にはスタッフや設備の問題で、ほとんど利用できないのが現状で、児童の短期入所については愛知県では新制度以前よりも利用者は減少してしまっています。また入所更生施設で以前より行っていた短期入所については、支給量が記載され、申込みがしやすくなったことで利用希望者が増え、中には利用者の意志に関わらず、支給量をすべて使い切ってしまうおそれがあるなどの利用の仕方が増え、施設によっては数ヶ月先までいっぱいという所も多く、本当に必要なときに利用できなくなってしまうという声も聞かれます。

次に、行政の責任が不明瞭な点です。従来の措置制度では、行政の責任によるサービスが提供されていたのですが、この制度では当事者による直接的な選択・契約であり、サービス提供に行政の責任はありません。従って施設を必要とする当事者が市町村に相談をしても、契約できる施設を自分で探すようアドバイスされるだけにとどまり、市町村によつては、十分な情報すら提供してもらえないところもあるようです。

また、地域間格差も大きな問題です。施設の種類によつては、その地域にその施設がないという場合もあります。地域で暮らす人たちを支えるための必要なサービスが整っていないため、これまでと同様、家族だけで必死に支えられている人たちも多くあります。

大きな理想を持つてスタートした支援費制度ですが、現実には利用者の選択に至までの環境が整っておらず、様々な不安要素が混在しています。見切り発車とも言える制度のスタートでしたが、それを可能にしたのは、この制度に対する関心の低さも要因だったように思います。しかし、障害者福祉の理想を実現するために、「制度」という大きな枠組みができたことは評価できます。いかに、その枠に入るものを充実させていくかが今後の大きな課題となってくるのではないでしょう。

(かしの木の里 野崎 貴詞)

施設コーナー②

買い物学習&合宿

檜の木作業所では、日常行なっている労働の他に、買い物学習、合宿があります。

この「買い物学習」「合宿」は、普段行なっている「労働」から学んでいただいている、「労働」－「賃金」－「生活」の関係をさらに強く結びつけてもらうため、また、自分の出来る事の幅を広げてもらい、将来につなげてもらうための取り組みとして行なっています。

実際に「買い物学習」「合宿」を体験され、どのように感じ、また成長されているのか、作業室Bを例に上げてみたいと思います。

買い物学習について

初めて買い物学習に参加される方は、お菓子、おもちゃなど、自分の好きな物、楽しみな物を買われます。



そこから、回を重ねる事に、購入される物が、ただ単に興味のある物だけでなく、自分にとって必要な物（絵を描いたり、TVの事、本の文字を写すノートなど）や、自分の身の周りに必要な物（靴、帽子、下着など）へとバリエーションが増えます。

その時に職員が「今度買ってみる」との

檜の木作業所



声かけで、ご家庭から

の「これが必要な」との声かけの応援もあるのですが、実際ご本人と一緒に商品を見て、選んで購入される姿、また、実際にその商品を身につけて登所される時、ものすごくうれしい表情を見せてくれます。

合宿について 合宿初参加される方は、何だろう、何をやるんだろうと緊張、不安を感じるためか、とまどわれます。

しかし、回を重ねる事で、自分の役割（風呂掃除、お皿洗いなど）を認識され、また、他の利用者の方、職員の「野菜切ろうか」などの声かけがきっかけで、取り組まれます。

そして、合宿に慣れてくると、自分のリズムで過ごされる他、一緒に合宿を行なっている仲間と話をしたり、一緒にゲームをしたりと、コミュニケーションを取り、時間を共有されます。

この時こそ、他者の事を気づかったり、コミュニケーションの幅を広げるきっかけなんだと思います。

今まで、「買い物学習」「合宿」について書いてきましたが、回を重ねる事に新たな進展、また職員が新たに教えて頂く事もあり、これらの取り組みを大切にしていきたいです。
(所：大川)

文芸コーナー①

邦画の中の主人公が教えてくれること・・・
閑話休題 第3弾です。2年ほどまえに、映画の中から教えられること～洋画編～を書きました。

今回は、その邦画編です。自分の観た映画の中で心に残っているものを2～3本紹介しましょう。

日本映画で泣かせてくれる役者といえば、武田鉄也と西田敏行ですね。武田鉄也は先生役で有名ですが、刑事役の映画を5本作りました。刑事物語です。その1本目『刑事物語 1』に、ハンディをもった女の人が出てきます。最初は、犯人として疑われたのですが、真犯人を捕まえた武田鉄也が、その女の人への恋におち惚れるのですが・・・また、ハンディを持った人の役として名優田中邦衛が出てきて・・・武田鉄也は失恋。このラストは涙なくして観られませんが、田中邦衛の演技がすごい。刑事物語1から5まですべて、笑いと涙を誘います。是非、レンタルビデオで観てください。

次に釣りバカ日誌シリーズの西田敏行。最近病気から復帰しましたが、学校シリーズでも有名です。その2作目『学校Ⅱ』は、養護学校が舞台です。一人の教師に心をどうしても開かなかった生徒が、少し先輩の生徒には心を開き、2人で冒険に出るという物語です。雪に閉ざされた北海道の町の中で、社会の冷たさと暖かさを受けながら、大空に旅立っていく・・・これも、とても感動するラストシーンが待っています。ハンディを持った人に、教師はどう対応すべきか、社会はどうかかわり応援すべきか

を私たちに教えてくれます。多少、脚色されたところがありますが、生の養護学校の様子や、現実の厳しい世界も垣間見られる作品です。その他の学校シリーズも、定時制高校などが舞台となって、これまた泣かされますよ。

では、最後に実話をもとに本として出版され、映画化された作品をひとつ。大江健三郎の『静かなる生活』です。大江健三郎はノーベル文学賞の作家として有名ですが、ハンディを持った子供さんがいます。光さんです。この子供さんの成長と、家族や友人の心の葛藤が描かれています。

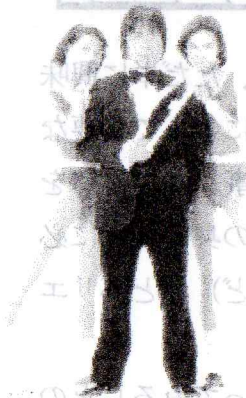
主人公の名前は「イイヨ」といい、養護学校時代から大人へと、やはり社会の冷たさと暖かの中で生きていく姿があります。これといったクライマックスもなく、題名どおり「静かなる生活」がそこにあるわけですが、何か感動を呼び、共感できるものを残して物語が終わります。これも、ビデオ等で是非観てください。

PS 図書での作品を一つ紹介しましょう。
「もも子・ぼくの妹」星あかり著 大日本図書 1400円 がおすすめです。

刑事物語

やまひこの詩

大日本図書



ラストシーンがとても悲しい物語ですが、人目を気にせず泣きたい人は是非読んでみてください。内容は、内緒。

(樫の木園 職員)

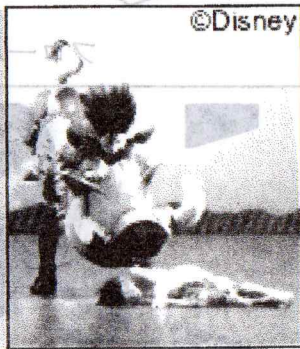
文芸コーナー②

せまってくる舞台

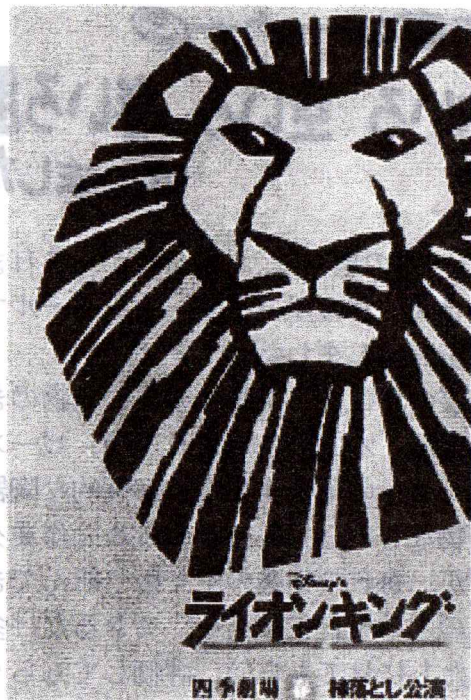
ミュージカルを観に行くのは初めてだった。訪れた新名古屋ミュージカル劇場は、想像していたよりも狭く感じた。観客と舞台との距離がとても近い。ここでどのような舞台が始まるのだろうか。

とあるサバンナのライオンの王ムファサに息子シンバが誕生する。サバンナは祝福ムードにつつまれる。しかしムファサは弟スカーに殺され王位を奪われてしまう。そしてシンバは群れを追われる。故郷を離れ未知の土地で失意のどん底にあったシンバは、森の友の「ハクハ・マタタ（くよくよするな）」の歌に励まされ、「サークル・オブ・ライフ＝生活の環」という父ムファサの教えに目覚め、叔父のスカーと対決すべく、なつかしい故郷へと帰っていく。シンバの成長と共に進むストーリーである。

いざ開演。と同時に劇場全体がサバンナへと化した。舞台上だけではなく、客席の通路にも様々な動物たちがあふれていく。役者たちは、それぞれの動物を表現するのに面をつけていたり、人形を操っていたり



ティモンとブンバ



したが、顔は覆っていなかった。役者たちの表情が動物たちの心を表していて、物語に深みが増しているようだった。また、シンバが未知の土地で知り合った友は名古屋弁で話す。舞台の上で、故郷とは違う土地に来たということを手巧く表現していた。流暢な名古屋弁のセリフには観客たちも大いに楽しんでた。舞台の狭さを少しも感じさせない演出と、観客の心を引きつける役者たちには驚くばかりだった。

物語としてはアニメにもなっているので、とても分かりやすいと思う。物語そのものへの感動とはまた違った感動が、ミュージカルという舞台できっと味わえるだろう。あらゆる想像を超えた衝撃の舞台。ミュージカルが初めてという方も、そうでない方も、ぜひ一度直接劇場へ足を運ぶことをお勧めします。 広報：瓜生

写真は劇団四季ホームページより引用しました

文芸コーナー③

秋いろ 空いろ 彩いろ展 行いました

かしの木の里では、9月2日から7日までの6日間一宮のギャラリーメンバーで作品展を開催しました。

陶芸のまごころ工房、手芸、織物のきらめき工房、木工のひだまり工房、ビーズ、クッションの第1作業室、個性的な陶器、染め物などのらちえっとの5つの作業グループが、毎日の作業の中で取り組んできたかしの木の里自主製品を、できるだけ多くの人たちに見てもらい、評価してもらうことを目的として、これまでの福祉バザーとは違った形で取り組んでみました。

たくさんのボランティアさんのアドバイスやご支援にも恵まれ、利用者の皆さんも、施設のスタッフもわずかずつでも力をつけてきたのではないかと、少々図々しくも駅前前のギャラリーをお借りして行ってみました。

今回はテーマを『秋いろ、空いろ、彩いろ展』として、各素材を秋をテーマに集め、良くも悪くも個性的な作品を出展してみました。

訪れた方たちは「この色いいですね」「あったかい作品ですね」など率直な感想をいただける方もあれば、作品を手にし眺めていただける方もあり、はじめてにしてはまずまずの反響だったのではないかと思います。

かしの木の里では、多くの人たちの感想や、ご意見をいただける場として、また常に次の目標を持てるための機会として、また来年も行っていきたいと考えています。毎年少しずつ進歩していくかしの木の里の作品を次回も見に来ていただけたら幸いです。

文芸コーナー④

フロール展出展しました



かしの木の里 らちえっとの下平一直さんが、第5回フロール展、土の造形部門に展示作品として応募総数800点の中から選ばれました。名古屋、栄の松坂屋本店にて期間中展示されました。誰でも応募できるということで昨年10月から始めた、まごころ工房での作業の目標になればという気持ちだったので、選ばれた時には皆びっくりしました。フロール展に向けてこんな作品をと提案したりもしましたが、最終的に応募した作品は自分が一番苦勞して作った物を選ばれたのではと感じています。それが審査員の方々に伝わったのでしょうか？ (らちえっと：夏井)

「良い作品とは、心のある作品です。うまく描くことではなく、たとえ一本の線でも一生懸命描くということ。」

「土の造形の審査をする私の基準は『この作品は、楽しんで作られたかどうか』です。」

フロール展審査委員



ギャラリーメンバーにて

☆簡単おやつ☆

“かぼちゃのポタポタ焼きもち”

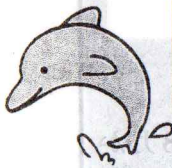
- 材料 かぼちゃ・・・400g
 片栗粉・・・100g
 しょうゆ・・・大さじ2
 砂糖・・・大さじ2
 サラダ油・・・適宜
 焼きのり・・・2枚



(作り方)

- ① かぼちゃは、皮をむき3～4cm角に切る。ビニール袋に入れ、電子レンジで7分ほど加熱（はしが通るくらい）する。
- ② ①をよくつぶし、片栗粉をいれて混ぜ合わせる。
- ③ 直径4cm、厚さ7mm程度のだんごをつくる。
- ④ フライパンにやや多めの油を熱し、中火でキツネ色になるまで焼く。
- ⑤ しょうゆ、砂糖を一煮立ちさせておく。
- ⑥ ④に⑤をからめ、のりで巻いたら完成。

いぼればなし



夏の交友会

“わあー”と大きな歓声と拍手。イルカショーでのイルカのジャンプに久しぶりに童心に返りました。

目と鼻の先の距離で、水中のイルカたちとふれあえ、ウミガメの子供たちのかわいい姿、ペンギンたちの水中での動き、カラフルな熱帯魚を見ることができました。

7月18日26名参加の名古屋港水族館。お天気にも恵まれ、たまには欲しい、そんな一日でした。

レク委員 M

第1回尾西作家協会展を見て

まず、尾西市に、たくさんの方々が、活躍してみえることに驚きました。そして、どの作品も、それぞれ個性あふれるものばかりで、みていると現実を忘れ、絵の世界に溶け込むような、落ち着いた時間を持てた事が、とてもうれしかったです。牡丹の墨と赤い色を使った技法の色合いは何とも言えない品の良さを表わし、みとれてしまいました。又こういう機会をこれからも作っていただきたいと思います。

お知らせコーナー①

押し花にする花募集中

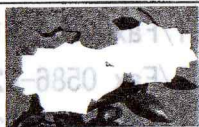
お庭に咲いている花をほんの少し分けて頂けませんか？

《押し花にできる花、葉っぱ》

バーベナ・ミニバラ・あじさい・スイートピー・かすみ草・黄花コスモス・ピオラ・もみじ・人参の花、葉などあまり厚みのない花・葉っぱを募集しています。

出来ればタッパ等の入れ物の下にきつく絞った雑巾、ティッシュを入れて頂くとしおれません。よろしくお願いします。

かしの木の里：きらめき工房



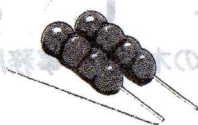
大盛況！櫛の木盆踊り大会

ありがとうございました。

毎年恒例となりました、櫛の木盆踊り大会が大盛況に終えることができました。たくさんのご寄付やご来場を頂き、大変ありがとうございました。今年は、例年より早く台風が発生し、8月9日から10日に延期させていただき、9日に足を運んでいただいた方には本当に申し訳ありませんでした。

人気ベスト5

- ・ 第1位 みたらし団子
- ・ 第2位 缶ジュース
- ・ 第3位 とうもろこし
- ・ 第4位 五平餅
- ・ 第5位 フランクフルト



お知らせコーナー②

行事予定 10月
11(土) そぶえ産業祭り/祖父江町
18(土)~19(日) 一宮福祉ボランティア活動展
/一宮スポーツ文化センター
25(土)~26(日) びさいまつり/尾西市東五城
26(日) おいちまつり/一宮・真清田神社前ひろば

秋は催し物がいっぱい
どうぞお出かけ下さい!



行事予定 11月

7(金)~9(日) テキスタイル館手織りフェア
/一宮馬引 テキスタイル館
9(日) 第4回かしの木フェスティバル
16(日) 第12回福祉フェスティバルびさい
24(月) びさいクリーン作戦/尾西市各所
コスモス祭り

平成15年度普通救命講習会
第3回 平成15年12月14日(日)
・9:00~12:00(3時間)・尾西市消防署研修室
・費用 無料 ・参加対象者 尾西市内在住・在
勤で中学生以上 申し込みは↓
尾西市消防署救急係 0586-62-3163 ダイヤルイン

中長期整備事業の有志による自己資金積立状況

(平成15年9月18日現在)

1. 累計積立額 **9,829,840円** (目標額: 3000万円/4年間)
2. 協力者数 **148名** (目標数: 150名以上)
3. 取組み経過月数 **26ヶ月** (平成13年8月開始)

- 協力者数は目標数に後一息です。
- まだ検討中の「あなた」には...早速のご協力をお待ちしています。
- この積立金は、榎の木作業所の建て替え整備資金として、有志の方により、平成13年8月から取り組みを行っているものです。
- ひとり一人のご協力が、この取り組みを支えています。
- 引き続き、目標額の達成に向けて、ご協力をおねがいします。



☆ 随時 作業・行事ボランティアさんを募集しております!!

詳しくは、かしの木の里 0586-63-2111 担当 武田まで。

尚、かしの木の会/手芸品 かしの木の里/自主
製品を、かしの木の里・施設にて販売してお
ります。榎の木園にて花苗を販売しています。
お立寄りの際はどうぞご覧下さい。

第4回かしの木フェスティバル
のボランティアさんを大募集しております。興
味のある方はかしの木フェスティバル実行委
員会へ、ご連絡ください。
TEL 0586-63-2111 ボランティア担当武田まで。

地域の人々に支えられ、地域の人々と共に

かしの木

かしの木の会 事務局 〒494-0018 愛知県尾西市富田字砂原 2147番地 Tel 0586-63-2111

かしの木の里内 Fax 0586-61-1200

榎の木福祉会☆榎の木作業所 尾西市富田字漆畑1 6番地 Tel/Fax 0586-61-6055/61-6514

☆榎の木園 尾西市富田字若宮1 7番地 Tel/Fax 0586-62-8202/62-8253

☆かしの木の里 尾西市富田字砂原2147番地 Tel/Fax 0586-63-2111/61-1200